

# 賽の河原地蔵和讃

これはこの世のことならず 死での山路の裾野なる  
賽の河原の物語 聞くにつけても哀れなり  
二つや三つや四つ五つ 十にも足らぬ幼子が  
賽の河原に集まりて 父上恋し母恋し  
この世の声とは事変わり 悲しき骨身を通すなり  
かの幼子の所作として 川原の小石を取り集め これにて回向の塔を積む  
一重積んでは父のため 二重積んでは母のため  
三重積んでは故郷の 兄弟わが身と回向して  
昼は一人で遊べども 日も入りあいのその頃は  
地獄の鬼が現れて やれ汝らは何をする  
娑婆に残りし父母は 追善させんの務めなく  
ただ明け暮れの嘆きには むごや悲しや不憫ぞと  
親の嘆きは汝らが 苦言をうくる種となる  
我を恨む事なかれ 黒金棒を取り立てのべ 積たる塔を押し崩す  
また積み積みと責めければ 幼子のあまりの悲しさに  
まこと優しき手を合わせ 許したまえと伏し拝む  
汝ら罪がなくなく思うかや 母の乳房がいでたれば  
泣く泣く胸を打つ時は 八幡地獄に響くなり  
母は終日疲れにて 父が抱かんとする時は  
母を離れず泣く声は 天地奈落に響くなり 言いつつ鬼は消えうせる  
峯の嵐の音すれば 父かと思うて馳せ登り  
谷の流れを聞く時は 母かと思うて馳せ下り 辺りを見れども母はなく  
誰とてそえいをなすべきや 西や東に駆け巡り 石や木の根につまずいて  
手足を血潮の染めながら おさな心のあじきなや  
砂を敷きつつ石枕 泣く泣く寝入る折からに  
また精霊の風吹けば 皆一同に起き上がり ここやかしこと泣き歩く  
その時能化の地蔵尊 ゆるぎいでさせ給いつつ  
何を嘆くか幼子よ 汝ら生命短くて 冥土のたびに來るなり  
汝ら父は娑婆にあり 娑婆と冥途は程遠し  
我を冥途の父母と 思うて明け暮れ頼めよと  
幼き者を御衣の もと裾の内にかき入れて 哀れみ給うぞ有り難い  
まだ歩けぬ幼子を 錫杖の枝に取り付かせ  
忍辱慈悲の御肌へ 抱きかかえて撫でさすり  
大悲の乳房を与えつつ 泣く泣く寝入る哀れさよ  
たとえがたき御涙 袈裟や衣に慕いつつ  
助け給うぞありがたや わが子を不憫とおもうなら  
地蔵菩薩を念ずべし 南無大聖の地蔵尊